



# 千葉労働動向

## 定期春報告

三月一日、千葉市民会館において第六回車両技術分科会定期委員会が開催された。

定期委員会は、まず議長に幕張支部分科会の石幡委員を議長に選出し、進行された。

まず冒頭、あいさつにたった斉藤会長は、「この一年間は、なかなか思うような活動が出来なかつた。これからも、会員の具体的提起があつたら積極的に取り入れて闘っていききたい。」とあいさつ、続いて本部を代表し、布施副委員長が「貨物も旅客も五〇歳以上を追い出す攻撃を強めている。『JR一〇年目の総括的評価』攻撃のなかで、現時点での労働条件を如何に守っていくのが問題である。年金の当面の行方は、本年決定される。いずれにせよ年金改悪のなかで、如何に六〇才まで働ける労働条件を確保していくのか、五五歳(五七歳)原則出向攻撃を打ち破るのか、が表裏一体の闘いである。本春闘において『実質賃金の切り下げ』が問題となつてゐる。電電は例年より二

〇日も早く低水準で妥結した。私鉄や、電力などでも『阪神大震災』を口実に『スト離脱』や春闘放棄が言われている。動労千葉は、三月一〇日春闘に闘し、スト通知行つた。また、同時に中江―水野選挙総決起闘争の勝利を必ず勝ちとらなければならぬ。三月二七日春闘―統一地方選勝利にむけた総決起集会を軸に車両技術分科会の会員も全力で奮闘されたい。」と檄を發した。

ちた者も含め受けろと言つてゐる。状況はどうか。」などの意見が出された。今日、検修職場を巡つても、「車両メンテナンスの近代化構想」を始めとする合理化構想が襲いかかつてゐる。「会社経営」という視点から見ると、車両メンテナンスに係る経費は、年間一―一五〇億円であり、営業経費全体の約七〇%を占めてゐる。これから経費削減・合理化だ!とされているのである。われわれは、この「一〇年目の総括評価」を巡る合理化攻撃の検修版として位置付けられてゐる「車両メンテナンス」の近代化構想を断じて許すことは出来ない。反撃の先頭に車両技術分科会は起とう!

### 一九九四年度新役員体制

会長	齊藤 常男	幕張
副会長	田中 龍美	佐倉
同	渡辺 敏博	館山
事務局長	成毛 正克	幕張
総監	石井 誠二	館山
同	鈴木 嘉夫	津田
同	加瀬 武正	新小
監計	星 和信	幕張

## 事務所公判報告

三月一〇日、一五時一〇分から、千葉地裁五〇五号法廷において、「組合事務所明渡公判」が開かれ、組合側証人として田中書記長が出廷し、組合側主尋問が行なわれた。証言で田中書記長は、まず、組合事務所の使用に関して、分割・民営化以降の会社側の使用妨害の数々を上げ、JRの動労千葉を嫌悪した不当な労務政策を明らかにした。さらに、東日本内他支社でのJR総連に対する優遇処置を上げ、JRとJR総連の癒着ぶりを余すところなく証言し、千葉支社における動労千葉への対応とは一八〇度違う対応が行なわれていることを明らかにした。

また、会社施設の利用についても、木更津支部でのダイヤ検討を行った際、講習室入口で出入りする組合員の名前をチェックするような不当な対応が行なわれたことを上げ、徹底的に弾劾した。また、会社側弁護士が、「労働委員会の証人調書を出せば足りるのではないか」という裁判輕視の発言を行なつたことに対し、動労千葉弁護団はもちろん傍聴席からも「労働委員会命令を守れ」とう鋭い発言が浴びせられる一幕もあるなど、会社側を徹底的に弾劾する裁判となつた。次回は、六月一六日、十一時からの予定である。

95春三勝利!

水野中江選挙

27勝利決起集

3.27 18日 夜 労資会館